

を稱したるものなること明らかかなり、今數例を擧げて之を證明せんに、

(一)舊唐書鐵勒傳に、貞觀二十年北荒悉く平ぎたるを記し、其の後薛延陀部長夷男の兄の子咄摩支が、更に太宗に請ひて鬱督軍山に居を占むるに至るや、

及咄摩支至、九姓渠帥莫不危懼、朝議恐爲磧北之患、復令英國公李勣、進加討擊、勣率九姓鐵勒二萬騎、至于天山、咄摩支見官軍奄至、惶駭不知所爲、且聞詔使蕭嗣業在廻紇中、因而請降

と記し

(二)新唐書卷百七陳子昂傳に、子昂が武后に書を上りて、十姓の入朝を許さんことを請へる次第を載せたり、曰く于時吐蕃・九姓叛、詔田揚名發金山道十姓兵討之、十姓君長以三萬騎戰有功、遂請入朝、后責其嘗不奉命擅破廻紇不聽、子昂上疏曰、國家能制十姓者、繇九姓疆大、臣伏中國、故勢微弱、委命下吏、今九姓叛亡、北蕃喪亂、君長無主、廻紇殘破、磧北諸姓已非國有、欲犄角亡叛、唯金山諸蕃共爲形勢、有司以揚名擅破廻紇、歸十姓之罪、拒而遣還、不使入朝、恐非羈戎之長策也

(三)新唐書卷二百十七下葛邏祿傳に次の如く記せり、
葛祿與九姓復立回紇葉護、所謂懷仁可汗者也(天寶三載の事なり)

(四)冊府元龜卷九七朝貢篇に

〔天寶四載〕九姓使回紇大首領頓啜邏達三(千馱)……來朝(編者云。この下原文の(五)(六)(七)三條凡そ二百六十字が削られてある)